

シネマ203

上映作品ラインナップ

たまにはちょっと、映画でも

北ぶらくり丁に、日本最小の映画館がオープンしました。

大きなスクリーンと包み込むような音響で、小さいのに本格的な映画体験をお楽しみください。

ドキドキするような世界の映画を、月替わりで上映しています。



🎬 見たい映画を見逃す心配のない映画館に【日時オーダー受付中】

- 毎月の土日祝を中心に、シネマ 203 が上映時間を設定してスケジュールを発表します。
- 見たいのに行ける回がない！ という非常事態には、お気軽に **日時オーダー** お寄せください。
ご希望の上映時間に、ご希望の上映作品を、追加上映いたします。
(追加上映は、HP、Facebook、Instagram で随時更新しますので、どなたでもご来場ください)
- 当日券あり、いつでもふらりとご来場ください。
なお、15 席の小さな劇場ですので、ご観賞の事前予約も各回 10 名様まで承ります。
(HP のスケジュールページに予約フォーム有。電話、メール、SNS メッセージでの予約も歓迎)

🎬 入場料金 (基本料金)

一般：1,700 円 / 大專：1,500 円 / 小中高：1,000 円

- ※ 当日入口にて現金のみ。各回上映 10 分前開場。全席自由席。受付順にご入場ください。
- ※ 特集上映など各種割引料金の設定あり。詳しくは HP やチラシにて。

🎬 アクセス【北ぶらくり丁会館 2F】

本町公園より徒歩 1～2 分

北ぶらくり丁と本町公園を南北につなぐ細い道路に【北ぶらくり丁会館】の鉄看板あり。奥の赤い階段を 2 階へ。

【駅から徒歩】

和歌山市駅より徒歩 10 分 (800m)

和歌山駅より徒歩 25 分 (2km)

【駅からバス】各バス停より徒歩 2～4 分

和歌山市駅より約 1～2 分

和歌山駅より約 5～9 分



北ぶらくり丁会館 203号室

cinema 203

シネマ203

7月の上映



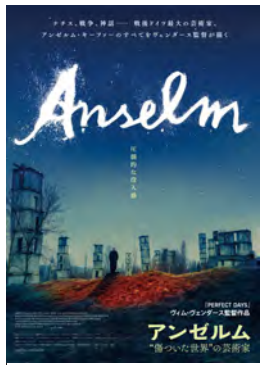
和歌山市中ノ店北ノ丁22
北ぶらくり丁会館 203号室
090-8172-7074

cinema203.com



🎬 2 人は 1945 年に生まれ、戦後の荒廃の中で育ち、芸術家になった

203 の皆さんは、驚かれるかもしれません。1 ヶ月かけて辿ってきたヴェンダース監督の 2 つの軌跡が、半世紀を経て集約されたかのような、最新作『アンゼルム』です。予告を見て、アンゼルムの作品群のとてもないサイズ感に「何なんだこれは！」と驚き、護摩壇山を通過して大斎原まで行ける私たちだから見えるものがある、そんな予感がしていましたが…それどころではなさそうです。手で考える 2 人の芸術家、真逆の活動をしてきたかに見えた 2 人が、世界を止めたコロナ禍の 2 年間で辿り直した人間の歴史に、目で、耳で、触れてみてください。待望のキーファー個展は、2025 年 3 月下旬～6 月下旬の開催が決定。アジア過去最大規模となる新作展覧会の舞台は、世界遺産・二条城です。



『アンゼルム “傷ついた世界”の芸術家』 (配給：アンブラグド)

+ ヴィム・ヴェンダース監督特集 6～7 月 (配給：東北新社)

WW—西ドイツから来た男

1974 『都会のアリス』 1975 『まわり道』

1976 『さすらい』 1977 『アメリカの友人』

ドキュメンタリスト—WW

1985 『東京画』 1989 『都市とモードのビデオノート』

1999 『ブエナ・ビスタ・ソシアル・クラブ』

+ 緊急追加上映

1984 『パリ、テキサス』 1987 『ベルリン・天使の詩』

🎬 8 月の特集『ギヨーム・ブラックの夏』を待ちわびて

「これってドキュメンタリーなんですか!？」皆さん、口を揃えておっしゃいます。話題のギヨーム・ブラック監督最新作は、若い方々、お二人連れ、そして県外からの映画ファンにも人気です。期末テストが終わった中高生にもご覧いただきたい……ということ、8 月の監督特集まで、ゆるゆると続映いたします。『女っ気なし』も再映しますよ♪

オリンピックの騒ぎを避けて、パリの皆さんは郊外へ避難されるとか……テレビでは報道されない生身のフランスの青春を、ぜひこの機会にちょっと覗いてみませんか。



『リンダとイリナ』Un pincement au cœur

監督：ギヨーム・ブラック

撮影：エマニュエル・グラ、録音：エマニュエル・ボナ

編集：パオラ・テルミン、音楽：パオラ・テルミン

字幕翻訳：高部義之 | 配給：エタンチェ

(2023 年／フランス映画／38 分／1.33 : 1)

🎬 Kisssh-Kisssssh 映画祭カウントダウン！ 10/12(土)・13(日)を待ちわびて

今年も Kisssh-Kisssssh 映画祭が北ぶらくり丁&本町公園にやってきます。昨年は、ギヨーム・ブラック監督特集でシネマ 203 のグランド・オープンを応援してくれた映画祭に感謝を込めて、ちょっと早いですが、カウントダウンの記念上映をいたします。

とある中学校の 3 学期、「2 年 6 組」35 人全員に密着し、「誰もが通ってきたのに、まだ誰も観ることができなかった景色」を映し出す青春リアリティ映画——昨年の映画祭で人気を博し、入場できなかった映画ファンから「見たかった!」の声が多数寄せられた『14 歳の栞』を、限定 5 回上映します。日時オーダーの受付はありませんので、お見逃しなきようご注意ください。(事前予約はいつものとおり、10 名様まで受付中)

予告篇でクリーブパイブのテーマソングを聞いてしまったら、即予約してしまうかも……。

① 14(日) 16:00	② 15(月祝) 12:30	③ 19(金) 19:00	④ 20(土) 12:30	⑤ 21(日) 15:00
---------------	----------------	---------------	---------------	---------------



『14 歳の栞』

監督：竹林亮

企画・プロデュース：栗林和明 他

主題歌：クリーブパイブ「栞」(ユニバーサル シグマ)

配給：PARCO | 企画製作：CHOCOLATE Inc.

(2021 年／日本映画／120 分)

🎬 個性的なドキュメンタリーが、映画の自由を広げるとき

梅雨です。今年の湿気はすさまじいですね、水中ににいるようで息が苦しい。そんな中、開放感あふれるヴェンダース監督 70 年代ロード・ムービーを上映してよかったと思わずにいられません。

果てしない 1 本道を、土煙を上げて走る車を眺めていると、こちらまで自由になった気分。メールやメッセージに追いつけられて気が気でない現代の暮らしの中で、映画館という場所は、スマホの電源を切ってひとりきりになれる貴重な隠れ家のひとつです。涼しいですね！

それにつけても、ヴェンダース監督特集です。6 月は<西ドイツから来た男>として初期の 4 本を重点的に上映しましたが、『PERFECT DAYS』や[午前十時の映画祭]の代表作 2 本とは、やはり違うものですね。若き映画青年が、アメリカの自由に憧れて、母国を東西に分けた壁の存在を考え続けた 70 年代。7 月は新作公開を機に<ドキュメンタリスト>として世界に飛び出し、“映画”を通して徹底的に未来を考え抜いた 80 年代をご覧ください。

🎬 🎬 🎬
 今月は、期せずしてドキュメンタリーが 3 本並びました。同じコロナ下で撮影されていたり、若者の学校生活に密着していたり、それぞれ共通点もあるものの、3 本ともぜんぜん違う映画です。それに、これまで知っていた“ドキュメンタリー”とも違う。大きく違う。こんなのアリなんですか？ アリだと思います。映画ってすごく自由ですから。

皆さんの 7 月には、どの 1 本がいちばん合うでしょうか。ご感想などお聞きするのが楽しみです。

🎬 🎬 🎬
 今月は、本町文化堂の [音楽と無声映画 Vol.2] が開かれます。鳥飼りょうさんのピアノ伴奏で見る作品は『ロイドの要心無用』！ 梅雨を吹き飛ばす最高の 1 本ですね。前回の『裁かるゝジャンヌ』は満員札止でしたから、ご予約はお早めに。上映は 7/15(月祝)の 15:00 より、今回は嶋田さん&鳥飼さんの豪華なトーク付き。オススメです！

(北ぶらのてるてる坊主より)